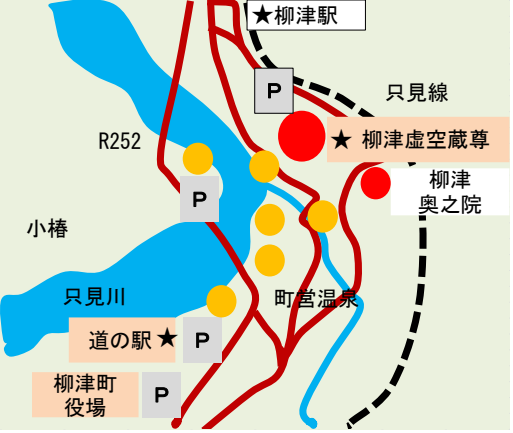


磐越道会津坂下ICから約10分。
普通車は、国道から坂を上り虚空蔵尊近くの駐車が便利。

【トイレ】★
【温泉旅館】●
虚空蔵尊境内から湧き出る温泉を配給。
弱塩泉。
日帰り利用可能。

柳津 赤べこ（ウィルス除け）誕生の秘密

「赤べこ」の誕生と黒い斑点の意味

只見川沿いの柳津町には、福満虚空蔵菩薩尊があり、会津三大霊場として慧日寺や八葉寺とともに知られています。戦国時代には三十六の宿坊があり、江戸時代も六坊あって、「塔ノ坊」（あづまや）「月本坊」（月本旅館）が今でも旅館として残っています。本堂の圓蔵寺虚空蔵堂は、慶長十六年（一六一一）の会津大地震で倒壊。そこで本堂を建て替えることになり『揚津秘録』に「元和三年（一六一七）蒲生秀行の室（家康の娘三女振姫）殿堂建立、其時の別当住持有栄和尚也。普請奉行は外池伊織介、村田喜平衛」『異本塔寺長帳』に「法界行人柳津邑（むら）虚空堂再興ス」と再建したのです。秀行の父は氏郷で、母は信長の娘冬姫です。『会津鑑』に「夏秀行公夫人　大殿復興　大殿本　岩下ニ在　楼而ニ　洪水難有故ニ　岩上ニ岩ニ遷ス　岩ニ刻シ為階高百余級」、「元和三年、（柳津）塔堂並び塔寺邑観音堂建ツ本願法界上人」「元和二年コトハジメ同三年円成」と、蒲生秀行夫人が堂の再建に関わったのです。

伝承に、堂を再建する時、只見川から材木を運び上げるのに苦労していると、どこからともなく毛が赤い「赤べこ」（赤牛）が現れ、材木運搬を最後まで手伝い去っていきました。そのため堂は完成しました。黒い斑点は、正徳三年（一七一三）に流行した疱瘡（天然痘ウィルス）除けのしるしです。赤べこは、虚空蔵菩薩様の使い（丑寅が守り）として感謝され、体の悪い部分牛を体になぞらえ撫でると体が良くなるとされています。会津の赤べこ（赤牛）は、昭和の戦後まで会津にいた「朝鮮べこ」と呼ばれた働き者の牛のことです。今でも熊本県と高知県で飼われています。

【只見川のゆらい】
下の写真は「亀石」と「畳石」で、「畳石の川」が「たたみ川」となり、後に「只見川」となります。江戸中期の『会津鑑』に「揚川」（阿賀川・あががわ）とは尾瀬沼から只見までを呼び、只見から片門までを「只見川」、片門より下流も「揚川」と呼んだと書かれています。

【注　意】
本堂菊光堂内の写真撮影は厳禁です。外から内部の撮影もです。ゴミは持ち帰りです。

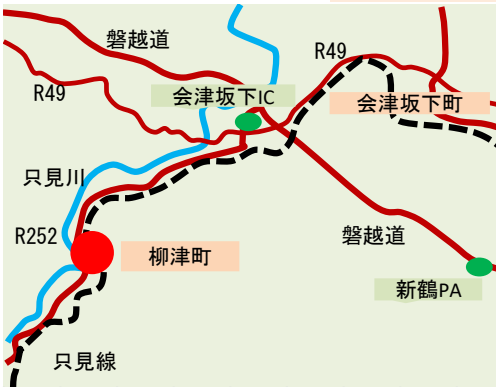
寺は、奈良法相宗の高僧徳一（とくいつ）大師が平安初期（『会津旧事雑考』に大同二年・八〇七年）に建てた寺とされ、茨城県の日高寺、千葉県の清澄寺とともに日本三虚空蔵の一つ。節目の十三歳に知恵を授かる「十三詣り」の霊場です。

虚空蔵菩とは

「宇宙のように限りない福徳と知恵を持つ菩薩」で岩場にいるという菩薩。奈良時代から平安時代前半に都で、貴族や庶民まで自然知恵の会得、記憶力を授かろうと大変信仰されました。戦国時代には上杉景勝が信仰し、豊臣家の戦勝祈願をしています。

菊光堂とは

明治二十年（一八八七）明治政府内務省から一五〇円の保存金が下賜され、屋根を吹き替えた時、菊花紋の使用が許されたので、それから「菊光堂」と呼ばれています。



【交通機関】R252、JR只見線・柳津駅
磐越道、会津坂下ICから約10分
只見線は約２時間に１本です。
会津若松駅からタクシーで約45分。
【トイレ】
境内や道の駅にあり
【会津戦争の痕跡】
本堂菊光堂南側には、1868年8月28日から9月6日、西軍長州藩らが対岸の小椿・向館から狙撃した弾痕跡が多数あります。

図・写真・文　©石田明夫2017　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「会津歴史観光ガイド協会」で検索。